

塗装剤製造装置を開発

圧力管理しドライ性能保証

大成建設ら

大成建設は、自動車用ワックスなどの製造を手掛ける神戸合成(宮岡督修社長)と共同で、ドライ空間を生み出しながら自動車用の塗装剤を製造できる装置を開発した。これまで手作業だった製造工程を自動化することで、コストを抑えながら

製造効率と品質が高められ、今後は様々な製造施設に提案していく方針。自動車用の塗装剤は、

空気中に含まれる水分原料となる薬品が反応しないよう、手の部分だけを密閉する箱状のグローブボックスを使って製造するのが一般的とされているが、手作業による製造は生産効率と品質面で課題を抱えている。また、手作業ではなくスペース全体をドライ化し、その中で自動

計量・調合設備(装置上部)

製造装置を移動する手法があるものの、ドライ空間を維持していくには多大な費用がかかるほか、原材料が露出する部分のみをドライ空間にしたまま自動製造する方法を採用した場合でもドライ空間を適切に確保する高度な技術が求められるという。



充填設備(装置下部)

両者は装置本体内部に圧力管理と装置筐体製造の機密性向上を高め、独自の技術により、ドライ性能

を保証する自動製造装置を開発した。同装置は、リチウムイオン電池工場など様々な製造ラインにも適用できることから、同社では今後も幅広い施設へ技術提案を行っていく方針だ。

